



多治見高校生の活躍

美術部の活躍

「タウンページ東濃版」の表紙をデザイン

本校3年生の渡辺小晴さんと水谷日菜子さんが12月発行の「タウンページ東濃版」の表紙をデザインすることになりました。NTTタウンページ中部営業本部より依頼があり、授業において美術を選択し、美術部でもある2人が取り組むことになりました。その様子が、2018(平成30)年5月24日(木)の中日新聞の朝刊に紹介されました。

多治見高の2人が 電話帳表紙作製へ

12月発行「タウンページ東濃版」



デザインについて意見交換する渡辺さん(右から2人目)と水谷さん(同3人目)＝多治見市坂上町の県立多治見高で

県立多治見高校三年の渡辺小晴さん(右)と水谷日菜子さん(左)が、十月発行の電話帳「タウンページ東濃版」の表紙を手掛けることになり、二十三日に同校でデザインを決めるプレゼンテーション(提案)があった。夏休み前の完成を目指すという。

電話帳を発行するNTTタウンページ中部営業本部(名古屋)が「今、将来の人に対してできること」をテーマに、高校生とのコラボを企画した。県内九つの版の表紙を地元の高校生の絵で飾る構想で、東濃版は多治見高校に依頼があり、三年で美術を履修している二人に白羽の矢が立った。水谷さんは「おぼあちゃんの家にもタウンページがあるの、見てもらいたい」と意気込む。

プレゼンでは担当する編集者らを前に、二人で基本構想を話し合っ一枚ずつ描いた地元の名勝、観光地のスケッチを一枚ずつ披露

【感想】

実業高校と違い、普通高校の生徒では一般企業の方と一緒に取り組むといった機会はほとんどありません。この話を聞いた時は、自分達が目指す進路に対して学べるものがあると思い、ぜひやりたいと先生に伝えました。

表紙作品制作の取り組みの中では、東濃地区と言葉では身近に使っていても、あらためて絵にすると考えると何を描こうか…悩み、自分達があまり地元を知らないということが分かりました。雑誌や本、インターネットの様々なサイトから資料を探すことから始め、地元を見つめ直すいい機会にもなったと思います。

実際にタウンページエリア編集長や営業部企画部長という肩書の人を目の前に、自分の作品のプレゼンテーションをした日は、緊張しすぎて作品を持つ手が震えました。そんな中でも伝えなければいけない内容は話しましたが、振り返ってみると、同じ内容でもコンセプトの伝え方をもう少し工夫すればよかったと反省点もたくさんありました。一回きりのプレゼンテーションで、分かりやすく自分の全ての思いを伝え切る難しさを学ぶことができました。これからは決まったアイディアの作品制作を進めるけど、2人で1つの作品を完成させていくことも、今までない経験で楽しみです。この貴重な機会を大切に、いい作品となるよう一生懸命取り組んでいきたいです。

美術部3年・美術Ⅱ選択 水谷日菜子・渡辺小晴